

新品種候補 「H133R」

(保存版)

てんさい新品種候補「H133R」の概要 道立十勝農試、北見農試、中央農試、上川農試、北農研センター、北海道てん菜協会(ホクレン、日本甜菜製糖(株)、北海道糖業(株))

1. 特性一覧表

系統名	H133R	来歴	「H133R」は、オランダのアドバンタ社が育成した二倍体単胚の一代雑種である。平成13年にホクレン農業協同組合連合会が輸入し、平成14年より各種試験を行った。	
-----	-------	----	---	--

特長	1)そう根病抵抗性が“強”である。 2)根重、糖量が「ユキヒノデ」より多い。 3)根腐病抵抗性が「ユキヒノデ」より強い“やや強”である。		短所	1)根中糖分が「ユキヒノデ」より低い。
----	--	--	----	---------------------

普及見込面積 平成17年度 150ha 平成18年度以降 150ha

品種系統名 形質	健全圃場				そう根病発病圃場	
	H133R	モノホマレ (標準品種)	ユキヒノデ (対照品種)	アーベント (比較品種)	H133R	ユキヒノデ (対照品種)
倍数性	二倍体	二倍体	二倍体	三倍体		
葉姿	中間	直立	直立	やや開平		
葉長	中	長	長	やや短		
葉数	やや多	やや多	やや多	中		
葉形	皮針	皮針	皮針	楕円		
クラウンの大小	小	小	中	小		
根形	円錐	円錐	やや円錐	円錐		
分岐根	少	少	やや少	少		
露肩	やや少	中	やや少	やや少		
根重(t/10a)	8.08(111)	7.29(100)	7.34(101)	7.46(102)	6.62(124)	5.34(100)
根中糖分(%)	17.04(98)	17.36(100)	17.62(101)	17.75(102)	15.97(97)	16.42(100)
糖量(kg/10a)	1,372(109)	1,260(100)	1,286(102)	1,320(105)	1,064(120)	883(100)
アミノ態窒素(meq/100g)	1.58(90)	1.75(100)	1.63(93)	1.62(93)	0.93(72)	1.29(100)
カリウム(meq/100g)	3.53(89)	3.97(100)	3.87(97)	4.05(102)	2.39(91)	2.64(100)
ナトリウム(meq/100g)	0.21(58)	0.36(100)	0.37(103)	0.25(69)	0.45(67)	0.67(100)
不純物価(%)	3.45(90)	3.83(100)	3.63(95)	3.65(95)	2.52(83)	3.04(100)
特性検定試験	H133R	モノホマレ	ユキヒノデ	アーベント		
褐斑病抵抗性	やや強	やや弱(やや強)	強	弱		弱
根腐病抵抗性	やや強	やや弱(弱)	弱	弱		やや弱
耐湿性	中	やや弱	中	中		中
抽苔耐性	強	強	やや強	強		強
そう根病抵抗性	強	やや弱	強	強		-
黒根病抵抗性*	中*	中*	(やや強)	-		-

注1)形態的特性は十勝農試の成績。

2)健全圃場は道立十勝、北見、中央、上川、北農研、てん菜協会(3カ所)計8カ所の3カ年平均(平成14年、15年十勝、平成14年北糖の全て及び平成14年中央のカリウム、ナトリウム、不純物価は除く)。()は「モノホマレ」に対する百分比。

3)特性検定は担当農試の成績。褐斑病、根腐病抵抗性における「モノホマレ」の()は品種登録時の分類。

4)そう根病発病圃場は北見農試そう根病抵抗性検定圃場の3カ年平均(そう根病発病程度は平成14年:中、平成15年:微、平成16年:多)で、()は「ユキヒノデ」に対する百分比。

5)「アーベント」はそう根病抵抗性を持たないため、特性検定試験には供試していない。

6)*黒根病抵抗性は中央農試における1カ年の成績。「ユキヒノデ」の()は品種登録時の黒根病抵抗性評価試験より“発生程度が「モノホマレ」より低い”の結果から推定。

2. 「H133R」の特記すべき特徴

そう根病抵抗性は「ユキヒノデ」並の“強”であり、そう根病発生圃場における根重、糖量は「ユキヒノデ」より多く、不純物価は低く、品質は優る。健全圃場における根重、糖量は「アーベント」より多く、不純物価はやや低く、品質はやや優る。また、根腐病抵抗性が“やや強”であり、「ユキヒノデ」の“弱”、「アーベント」の“やや弱”に比べ強く、抽苔耐性は“やや強”の「ユキヒノデ」より強く、「アーベント」と同じ“強”である。

3. 優良品種に採用しようとする理由

てんさいの重要病害であるテンサイそう根病は、化学的な防除が困難なため、発病圃場では同病の抵抗性品種の作付けが不可欠であり、発生地域の拡大とともに抵抗性品種の重要度はさらに高まっている。そう根病抵抗性品種「ユキヒノデ」は、平成15年117ha、平成16年123ha作付けされているが、さらに収量性の高い品種が要望されている。

そう根病抵抗性を有する「H133R」は、「ユキヒノデ」に比べ、根中糖分は低いが、根重、糖量は多く、不純物価はやや低く、品質がやや優る。根腐病抵抗性は“やや強”と「ユキヒノデ」の“弱”より優れ、抽苔耐性は“強”で「ユキヒノデ」より強い。

以上のことから、「H133R」を「ユキヒノデ」に置き換えて普及することにより、てんさいの安定生産に寄与できる。

4. 栽培適地

北海道一円のそう根病発生地帯

5. 栽培上の注意

- 1) 根腐病抵抗性は“やや強”であるが、通常の防除を行う。
- 2) 根中糖分が低いので、北海道施肥基準を越えるような多肥栽培は避ける。